

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立西脇中学校
校長氏名	北垣 有信
作成日	平成 27年 2月 10日

1 教育目標

共に 豊かに 生きる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<p>◎家庭との連携を密にし、保護者や地域に信頼される学校をめざす。</p> <p>◎地域の共育コミュニティ等と積極的に交流し、地域と共に育つ学校をめざす。</p>	<p>◎道徳教育を推進し、基本的な生活習慣や規範意識、学習規律を育成する。</p> <p>◎学校行事や学級活動などを通して「誠実で、思いやりがあり、個性豊かな生徒」を育む。</p>	<p>◎キャリア教育を充実させ、個々の進路をしっかりと見極める生徒の育成を図る。</p> <p>◎よくわかる授業（基礎基本の定着）、生徒の興味・関心・意欲が増す授業の工夫・改善により、生徒の学びの自己実現を支援する。</p>
取組の状況【D】	<p>◆「ぐるりんメール」を活用して学校の予定等を配信し、家庭との連携を密にする。</p> <p>◆ホームページで、学校の様子を適時発信する。</p> <p>◆愛育会活動や共育コミュニティ事業との連携で、本校教育への理解と協力を得る。</p>	<p>◆生徒実践目標「あ（挨拶）、そ（掃除）、べ（ベル着）」の徹底指導</p> <p>◆WYSH教育やグループアプローチ授業、教室掲示などを通じた「より望ましい学級・学年集団」づくり</p> <p>◆多彩なゲストティーチャーの招聘による、健全で個性豊かな人間性の育成</p>	<p>◆全国学力学習状況調査、県学習到達度調査の結果分析と活用</p> <p>◆TTやグループ学習による授業改善</p> <p>◆定期考査時等での補充学習</p> <p>◆学力向上事業アドバイザーによる授業巡回や外部機関（クロネット）の協力による授業改善</p> <p>◆OJTとしての「校長通信」</p>
（評価結果【C】）	<p>■メールとHPの活用により、学校の情報提供についてのアンケートが90%の肯定評価を得た。</p> <p>■共育コミュニティ活動と連携した防災行事などを実施できた。</p> <p>■地域行事への参加は例年どおり好評であった。</p>	<p>■「挨拶」は校内ではよくできている。「ベル着」も指導により少しずつ守られてきた。「掃除」は二足制への移行に伴い、やや不徹底である。</p> <p>■「学年・学級づくり」で集団的学びができつつある。</p>	<p>■学力・学習の状況分析から、授業目標の明確化などが改善された。</p> <p>■TT授業や集団的学び等により、落ち着いた学習環境になってきた。</p> <p>■若手教員が授業改善の視点を明確に持てるようになった。</p> <p>■補充学習の方法については今後も検討が必要である。</p>
改善方法【A】	<p>○メール・HPについて、内容を精選しながら継続して配信に努める。</p> <p>○共育コミュニティの活用をさらに充実させる。</p> <p>○学校行事への保護者の参加を促す対策を考える。</p>	<p>○「あ・そ・べ」を継続して徹底指導する。</p> <p>○Gアプローチ授業やWYSH教育などで「学年・学級づくり」を一層進めるとともに、「協同的な学び」を取り入れたよりよい学習集団づくりを目指す。</p>	<p>○「協同的な学び」（グループ学習）を取り入れることで、学ぶ楽しさを追究できる授業づくりを進める。</p> <p>○補習授業を充実させるとともに、「3点固定」を合い言葉にして家庭学習の充実をはかる。</p>

3 その他の課題

今年度は「学級・集団をつくる」意識の醸成を目指して「学びの基礎を築く学級づくり」を研究主題とした校内研修に取り組んできた。とりわけ、8年目に入ったWYSH教育、本年度の県教委指定「きのくに学力フォローアップ事業」によるQ-Uを活用したGアプローチ授業、退職校長（金谷先生・細田先生）による若手教員への授業指導などで、生徒指導面や学校・学年経営に大きな成果を得られたと感じている。

次年度は、若い教員が多い本校の課題を解決すべく、授業改善に取り組みたいと考えている。特に「学びの共同体」の考えを取り入れたグループ学習は、本校が本年度まで取り組んできた集団づくりにも関連していると思われ、市教委の指導・援助を得て協同的な学習にチャレンジしていきたいと思う。